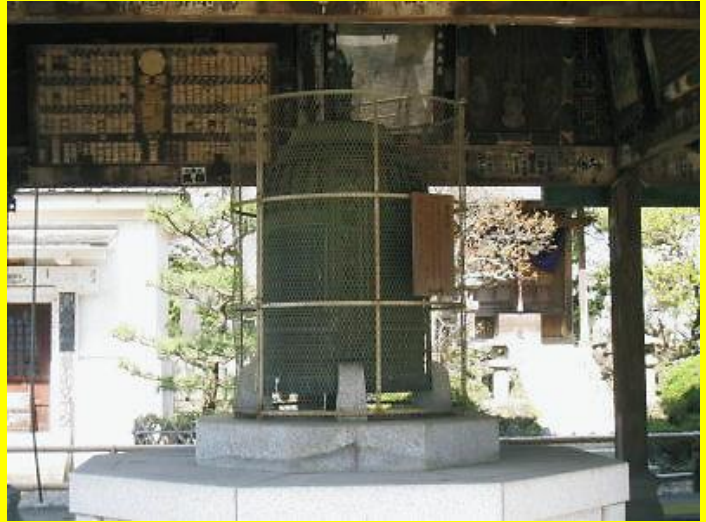


鐘 楼 と 香 閣



丹塗りの鐘楼



昭和 43 年(1968 年)当額堂内に移設いたしました

1636 年鑄造の梵鐘は金属類回収令により供出されたが、額堂内のこの梵鐘は供出されなかった。

仏教寺院にある鐘は、梵鐘と呼ばれ、仏具として重要である為、一個は残しておく必要があった。

現在額堂床にある旧梵鐘は江戸時代末当山中興第十三世照輪僧正代に神田鍋町の藤原国信により鑄造され現本堂が完成する昭和 43 年まで毎日時を告げていた鐘である。 重さは 912,5 キロ

江戸時代末中興第十三世照輪僧正代に鑄造と記されていることから 1867 年の鑄造であろう。

第十三世原口照輪 (1815~1882) 1867 貫首 1882 遷化

鐘 楼

元禄 14 年 (1701 年) に建立されました。高さ 18m、約 7m 四方の勾欄をめぐらした入母屋造袴腰付の丹塗 (にぬり) の建物で、安政と明治の頃に補修が行われています。

梵鐘及び香閣は、昭和 43 年 (1968 年) 新大本堂建立を記念して、香取正彦が設計・鑄造。

鐘は高さ約 180 c m 口径 90 c m 重量は 1068 k g あり、成田葉「牡丹の紋」と「くりから竜」が配されています。

朝 (21 回) [夏 5 : 30 冬 6 : 00]

昼 (13 回) 十二時なので十二回であるが 13 回目は留め打ちとして軽く打つ

夕刻(11 回) [夏 18 : 00 冬 17 : 00] 朝昼夕に毎日鳴らされる。

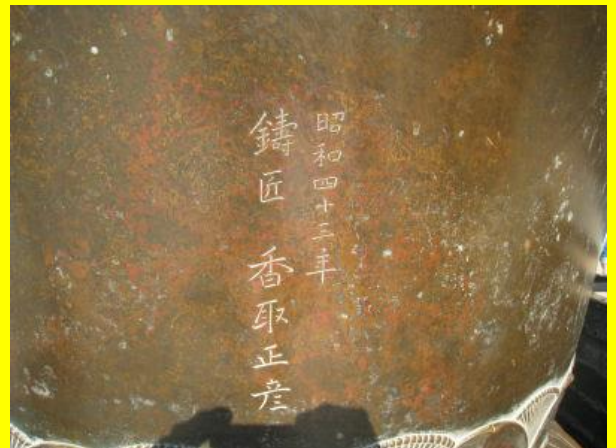
朝と夕刻は大師堂と掛け合いをする。鐘は、境内と門前町に時を知らせる趣のある音色です。

香取 正彦 (かとり まさひこ) 人間国宝 (鑄金工芸作家)

成田山や比叡山延暦寺の梵鐘・広島平和の鐘 (1967 年)・宗吾霊堂の梵鐘、仁王像等を制作



香 閣



人間国宝 香取正彦氏作